

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成23年7月21日(2011.7.21)

【公表番号】特表2010-529264(P2010-529264A)

【公表日】平成22年8月26日(2010.8.26)

【年通号数】公開・登録公報2010-034

【出願番号】特願2010-511395(P2010-511395)

【国際特許分類】

C 08 L 25/02 (2006.01)

C 08 L 51/04 (2006.01)

C 08 F 8/20 (2006.01)

C 08 F 12/06 (2006.01)

【F I】

C 08 L 25/02

C 08 L 51/04

C 08 F 8/20

C 08 F 12/06

【手続補正書】

【提出日】平成23年5月30日(2011.5.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

臭素化アニオン性連鎖移動芳香族ビニルポリマー(ACTVAP)を含む難燃性組成物であって、(i)少なくとも約72重量%の臭素を含み、かつ(ii)約1,000ppm(重量/重量)未満の熱的に不安定なBrを含み、ここで、重量%およびppmの値が、該組成物の全重量に対する値である組成物。

【請求項2】

窒素下、約280～約380の温度で、TGAによる5重量%の減少を有する請求項1の組成物。

【請求項3】

臭素化ACTVAPが、全組成物重量の少なくとも約97重量%を構成する請求項1の組成物。

【請求項4】

組成物の全重量に対し25重量%未満の臭素化モノ付加物を含む請求項1の組成物。

【請求項5】

約1～約8の範囲内の黄色度指数(ASTM D1925)を有する請求項1の組成物。

。

【請求項6】

GPCにより、約1250～約14,000ダルトンのM_w、約1070～約8,200ダルトンのM_n、および約2.2未満のPDを得る請求項1の組成物。

【請求項7】

臭素化ACTVAPは、臭素化アニオン性連鎖移動スチレンポリマー(ACTSP)である請求項1の組成物。

【請求項8】

約290～約380の温度で、5%の、TGAによる重量%減少を有する請求項7の組成物。

【請求項9】

臭素化ACTSPが、全組成物重量の少なくとも約97重量%を構成する請求項7の組成物。

【請求項10】

約1～約8の黄色度指数(ASTM D1925)を有する請求項7の組成物。

【請求項11】

GPCにより、約1250～約14,000ダルトンのM_w、約1,070～約8,200ダルトンのM_n、および約2.2未満のPDを得る請求項7の組成物。

【請求項12】

難燃量の請求項1～7のいずれか1つの組成物を含むHIPS系配合物。

【請求項13】

難燃量の請求項1～7のいずれか1つの組成物を含むABS系配合物。

【請求項14】

さらに、相乗的な量の難燃性相乗剤を含む請求項12の配合物。

【請求項15】

さらに、相乗的な量の難燃性相乗剤を含む請求項13の配合物。

【請求項16】

臭素化アニオン性連鎖移動芳香族ビニルポリマー(ACTVAP)を含む難燃性組成物であって、(i)約35～約165の範囲内のガラス転移温度(T_g)を有し、(ii)少なくとも約65重量%の臭素を含み、(iii)約1,000ppm(重量/重量)未満の熱的に不安定なBrを含み、ここで、重量%およびppmの値は、組成物の全重量に対する値である組成物。

【請求項17】

請求項16の組成物において、

A)組成物が、約75～約135の範囲内のガラス転移温度(T_g)を有すること

B)組成物が、約290～約380の温度で、TGAによる5重量%の減少を有すること、

C)臭素化ACTVAPが、全組成物重量の少なくとも約97重量%を構成すること、

D)組成物が、全重量に対し約25重量%未満の臭素化モノ付加物を含むこと、

E)組成物が、約1～約8の範囲内の黄色度指数(ASTM D1925)を有すること、および

F)組成物が、GPCにより約1,000～約21,000ダルトンのM_w、約850～約18,500のM_n、および約2.2未満のPDを得ること、
によってさらに特徴づけられる組成物。

【請求項18】

臭素化ACTVAPは、臭素化アニオン性連鎖移動スチレンポリマー(ACTS defense)である請求項16の組成物。

【請求項19】

請求項18の組成物において、

a)組成物が、約70～約160の範囲内のガラス転移温度(T_g)を有すること

b)組成物が、約290～約380の温度で、TGAによる5重量%の減少を有すること、

c)臭素化ACTS defenseが、全組成物重量の少なくとも約97重量%を構成すること、

d)組成物が、約1～約8の範囲内の黄色度指数(ASTM D1925)を有すること、および

e)組成物が、GPCにより、約1,000～約21,000ダルトンのM_w、約850

～約18,500のM_n、および約2.2未満のPDを得ること、
によってさらに特徴づけられる組成物。

【請求項20】

難燃量の請求項16または18の組成物を含むHIPS系配合物。

【請求項21】

難燃量の請求項16または18の組成物を含むABS系配合物。

【請求項22】

請求項1、7、16または18の組成物のいずれか1つを含む熱可塑性製品。